

一般質問 Q & A

●記事の内容 掲載している質問・答弁は要約しています。詳しくは録画中継や会議録をご覧ください。
●録画中継 各記事の二次元コードから、録画中継をご覧ください。



やまだ ゆたか
山田 裕

Q 自衛隊員の集団市

街歩行訓練が市民に不安や恐怖を与えており、訓練時に事前報告を求めるべきと考えるが見解は。



A 福島駅周辺での市中パレードなどの行事は、自衛隊に対する市民の理解と安心感の醸成を目的として開催され、市への後援依頼と合わせ事前に自衛隊から情報提供されている。市内道路での歩行訓練は、警察署へ道路使用許可申請を経て実施されており、安全面に配慮されていると認識している。市として事前報告を求める考えはないが、市民から問い合わせがあれば、駐屯地へ確認し、状況を把握のうえ説明していく。



うらの ようたろう
浦野 洋太郎

Q 今後の防災DXの

展開と課題は。



A 業務見直しと合体した革新と捉え、的確な情報収集と伝達共有の効率化に取り組んでいる。被災者支援システムは、今後、発災前の気象情報や河川水位などの情報から、避難所の開設受け入れ、被災状況の把握、被災者支援までのデータが一連で流れる仕組みの構築に向けた運用を検討していく。防災DXは、職員の負担軽減、的確な対応、人口減少下での体制確保につながるが、課題となるデジタル弱者への対応を研究していく。



ねもと まさあき
根本 雅昭

Q リチウムイオン電池

による事故防止のため、処理施設へセンサーや散水設備と組み合わせたシステムなどを取り入れることへの見解とこれまでの予防策は。



A 資源にできない埋めるごみとして排出された場合、資源化工場で破砕などの処理がなされるため、火災報知器と連動する散水設備、酸素濃度を低下させる蒸気防爆装置の装備など、防火対策に取り組んでいる。安定的、持続的なごみ処理機能は必要不可欠であり、分別回収の取り組みと合わせ、施設の更新や大規模改修に合わせた施設整備など、実効性の高い防火対策に引き続き努める。



すがわら みちこ
菅原 美智子

Q 鎌田地区の丸子堰、

本内堰の用水路越水被害は、水門管理のみでは対応できないため、雨水の緊急放水路、一時貯留施設を設置すべきだが見解は。



A 浸水被害軽減には、流す対策に加え、遅らせる対策も必要であり、一時貯留施設は有効な手法であるため設置を検討していく。

また、さらに効果を高めるため、行政だけでなく民間でも貯留施設や浸透枳などの設置など、官民共創による流出抑制の促進が必要と考える。鎌田地区においても、流す対策のほか、遅らせる対策についても今後検討し、官民共創により流域全体で浸水被害の軽減を図る。



みうら ゆみこ
三浦 由美子

Q デフリンピックにつ

いて、子どもたちがデフサッカー選手と触れ合える今後の応援企画は。



A 10月26日に福島ユナイテッドFCのホーム戦で、県が県聴覚障害者協会のブースで行うデフリンピックサッカー競技の応援PRに合わせ、市もホーム戦の誘客、当該企画の広報に努める。11月上旬のデフリンピックサッカー男女日本代表の直前合宿に、広く見学を呼びかけ子どもたちがデフサッカーを体験できる機会を検討したい。加えて、横断幕やのぼり旗の掲示、関係機関への貸し出しなど、応援機運の醸成に努めていく。



すずき まさみ
鈴木 正実

Q 異常な高温による

モモへの障害や溺水被害に対する農家への支援策は。



A 地球温暖化の影響により異常気象が発生し、果樹農家などに深刻な影響を与えているため、気候変動適応型農業支援事業を構築し、溺水被害対策のための井戸掘削や猛暑などから農作物を保護するための自動かん水装置、細霧冷房装置の導入などに係る支援を行っている。今後も極端化する気象への対策の必要性や支援策を生産者に周知し、気候変動対策を推進する。さらに長期的な対策として、高温耐性型品種の開発を加速するよう県への要望を続ける。



さほら まき
佐原 真紀

Q 子育て世代の経済的負担の軽減、環境に配慮した地域づくりの観点で、制服リユースに対する考えは。



A 制服のリユースは、経済的負担の軽減だけでなく、資源の有効活用やごみの削減、地域の共助による持続可能なまちづくりの実現にもつながり、有益な取り組みであると認識している。PTAや地域団体などによるリユース活動が行われ、自主的な支援の輪が広がっており、市民が主体的に取り組めるよう後押し、企業との連携の可能性も含め、今後の取り組みについて検討していく。



にかいどう りえ
二階堂 利枝

Q 子どもたちが農業に関心を持つため、中学校で農業に特化した部活動の設置、地域と連携し野菜、果物や米などを育てる取り組みが必要だが見解は。



A 地域の協力を得て、米や野菜、果物などを育てる体験は、農業を身近に感じ、楽しさややりがいを実感し、地域への愛着、誇りの醸成、食育推進への寄与、農業と科学の密接な関係の理解など、教育的価値の高い活動である。多くの学校で地域の特性を生かし、体験を行っている。部活動の設置は、自主的、自発的な活動であり、活動場所と指導者の確保などの要件を踏まえ、各学校が判断すべきと考える。



ししど かすてる
荒戸 一照

Q 四季の里の将来ビジョン、運営方針、施設活用方針について、今後の進め方は。



A 開園から30年が経過し、様々な課題が生じている。新たな視点で運営するため、実湧満彩な四季の移ろいを感じながら、子どもから大人まで時間を忘れて楽しめる公園とし整備を図る。農業に関する体験コンテンツの導入や定期的な朝市などを実施し、福島らしさを生かしたコンテンツの展開、農畜産物を使用した食事や軽食が取れる場所の整備、子ども遊び場の充実を図る。空き施設は、運営事業者を募集し、民間事業者の知見を生かして施設全体の充実を図る。



ささき ゆう
佐々木 優

Q 加齢性難聴の補聴器購入において、難聴と認知機能低下との関連について本市も調査研究により状況を掴むべきだが見解は。



A 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施し、令和5年調査では、耳の聞こえの項目で高齢者約3千人の4・2%、125人が補聴器使用、13・5%、398人が聞こえで困っていると回答を頂いた。補聴器購入補助の実施自治体は、難聴と認知機能低下の関連性に関する独自基準は特になく、対象要件を聴力などに定め実施している。難聴と認知機能低下の関連性は、全国共通の課題であり、国による究明が図られることが望ましいと考える。



おの きょうこ
小野 京子

Q 市立幼稚園、保育所、認定こども園の再編成方針の基本的考え方は。



A 市立幼児教育・保育施設の役割として質をさらに高める拠点、多様なニーズに応え、休日・病児保育などの提供、教育・保育の受け皿確保としている。これを踏まえ、区域ごとに拠点施設を設置し、築50年以上の老朽施設は統廃合し、再整備もしくは民間施設へ機能を移す。さらに、ニーズと定員が見合うよう施設の定員を調整し、子どもの育ちに必要な集団を作れる規模が確保できるよう、市立幼稚園を統廃合し、認定こども園化または民間施設へ機能を移す。



むらやま くにこ
村山 国子

Q 不登校の子どもと親の支援について、介護休業制度のような不登校休業制度の創設、看護休暇の拡充など育児と仕事の両立に対する支援が早急に求められるが、見解は。



A 不登校の子どもを持つ保護者は、我が子の将来への不安や仕事との関係など、多くの悩みを抱えている。保護者対象の新たな休業制度などは国において検討・整備すべきものと捉えている。本年4月に育児・介護休業法における常時介護を必要とする状態に関する判断基準が見直され、子どもが不登校に至る事例も国会で議論されており、引き続き国の動向を注視していく。

各議員の氏名の下にある二次元コードから市議会HPの録画映像をご覧ください。
(公開期間は11月末日まで)



録画中継は
こちらから▼



A ふるさと納税をはじめとするシティセールスや特色あるまちづくりによる都市ブランド向上などにより関係人口創出に取り組んでいる。積極的に対外へと情報発信することで、都市ブランドの向上に努め、子育て支援と教育の充実、新産業の創出、賑わいづくりと文化スポーツの振興、DXのほかUFOの里づくりや納豆のまちふくしまなど、個性ある地域づくりの取り組みにより、次世代を育みやすいまち、个性的なものが躍動する面白いまちというブランドづくりを進め、関係人口創出を図る。



七島 奈緒
ななしま なお

Q 移住促進に向け、関係人口の創出への取り組みは。



市議会傍聴マスコットを 紹介します

福島市議会では、8月から本会議を傍聴する方へ傍聴パスポートをお渡ししております。なお、パスポートには、生成AIにより作成したマスコットキャラクターがデザインされております。

マスコットは、市の鳥であるシジュウカラをモチーフとしております。

※詳しくは、裏表紙(8頁)をご覧ください。



シジュウカラきくちゃん
(市中から)



シジュウカラきくよ
(市中から)



シジュウカラきくぞー
(市中から)

議会の運営などに関する協議や調整を行う ために各種検討会を設置しています

議会改革検討会

今後の議会のあり方及び議会に係る諸課題や議会基本条例の施行状況の確認、検討を行います。

※議会基本条例の施行状況についてはこちらから⇒



座 長	副座長
羽田 房男(副議長 市民21)	小松 良行(真政会)
委 員	
川又 康彦(真結の会)	沢井 和宏(市民21)
小野 京子(公明党)	山田 裕(日本共産党)

政務活動費検討会

議員の調査研究その他活動に資するため必要な経費の一部として交付される政務活動費のあり方や諸課題について検討を行います。

※政務活動費についてはこちらから⇒



座 長	副座長
羽田 房男(副議長 市民21)	丹治 誠(公明党)
委 員	
七島 奈緒(真政会)	根本 雅昭(真結の会)
遠藤 幸一(市民21)	佐々木 優(日本共産党)

議会活動推進検討会

市議会だよりやホームページをはじめとした議会広報の充実や議会図書室の管理、議会活動のペーパーレス化やICT化の推進など、議会活動を推進するための協議、検討を行います。

※市議会の広報はこちらから⇒



座 長	副座長
羽田 房男(副議長 市民21)	村山 国子(日本共産党)
委 員	
佐藤 勢(真政会)	菅原美智子(真結の会)
佐原 真紀(市民21)	高木 直人(公明党)